

おわりに

- 私たちは昨年度、一年間の同和問題学習を軸とした実践記録「峠を越えて」をまとめた。思いつきのようにしてできた冊子であったが私たち仲間うちだけの共有の一つの財産としてなにかにつけ今年度も活用することが多かった。何よりも、毎日のつたない実践とはいえそれが眼に見える形で手にすることができたときの喜びー多分に自己満足であるがーは大きなものであった。そんなこともあり今年度は当初よりとにかく年度末には一冊にまとめてみようという全員の了解のもとにスタートした。郡同和教育研究大会、県中学校同和教育研究大会の会場を本校で引受け全学級公開授業を行うということで実践の材料には事欠かない1年でもあった。これを私たちは積極的に自分たちの問題として受け止め実践していきたいと思った。冊子にまとめるにたる実践に取り組みたいというのは一見本末転倒に見えるかも知れないがそれはそれで良かった。大げさに言えば、それで教師として充実した日々が送ることができ、力をつけることができればそれにこしたことではない。そんな思いでのスタートである。
- それにしても、一言で言えばきつい毎日であった。昨年度より引き続いての同和問題学習はまさに教師としての生き方を問われる厳しいものであったようだ。子供に教えられるということを実感した毎日であった。部落の子供たちから、本音を突き付けられ立ちすくんでしまうようなこともあった。「先生、もうきれいな授業やいらん。本気で子供に向き合う。」これは1学期当初の佐野先生の言葉であった。涙を浮かべる子に「先生、私せこい。あの子意見発表会から降ろそうかと何度も思った」これは、後藤田先生の言葉。みんなが苦しい思いをしてきた。それでも私たちは逃げることだけはしなかったつもりである。一人であれば、逃げていたかも知れない。その方が楽だから。しかし、子供たちの言葉が支えになった。それ以上に私たちはよき同僚に恵まれたことを何よりも「逃げなかった」ことの第一の要因に挙げる。疑問点は何でもだしあつた。顔がまっ赤になるようにしての議論もあった。夜遅くまで指導細案の検討を重ねるなかで一つ一つ階段を踏み締めるようにして今日まで来ることができた。みんなが力を合わせたから初めてできてきたことである。一人の力では何もできなかつたこと、それを改めてかみしめている。
- 3年生としての進路指導においても私たちは各学級の枠を越えて個々の生徒に焦点を当てて考えることを全員で確認しながら進んだ。ともすればギスギスなりがちな願書提出前の数日間も全員が一つの目標に向い、一人の子供のことについて検討を重ねた。時にはこれが出来前年の3年の先生の集まりかと思うような楽しい雰囲気の中で仕事を進めることができたのは、この1年間の同和問

題学習や早朝学習でともにスクラムを組んできたという我々の仲間意識があつたからだと自負している。それにしてもすばらしい生徒たちと先生方であった。昨年度も同じようなことを書いたが、私個人の思いを言えば先生方に感謝の言葉のほかない。板野という初めての任地においてこのような楽しく充実できた日々を作っていただいた子供たちと先生方に改めて感謝したい気持ちで一杯である。

- 大きな声でを歌うことのできた卒業式。式後の校庭で阿部先生のギターにあわせて歌った「友よ」「乾杯」はいつまでも心に残るだろう。この合唱こそが私たち3年教師団と185名の生徒の2年間の生活や取組みを象徴したものになった。苦しいとき悲しいときにあの歌を思いだし、それぞれの道で精一杯の精進を重ねて欲しいと思う。そしてまたいつの日かの再開を楽しみにし、子供たちに幸多かれと心から祈りたいと思う。
- この実践記録「峠を越えて」は、忙しい日々の合間にぬってそれぞれの先生方が作り上げた手作りのものである。中には、ご主人や娘さんにワープロを打つのを手伝ってもらった先生もいたとか。そういう意味で家族まで巻き込んでの難産の末生まれたものである。それだけに「PART I」同様、字の大きさもばらばらなら表現も統一されておらず誤字脱字も多いことと思う。しかし、私たちの気持ちを汲んでいただき眼を通していただき、遠慮の無いご批判ご指導をお願いできれば、またそれを新しいエネルギーとして頑張っていきたいと考えている。
- 同和問題学習の授業実践については校外の多くの先生方にご指導をいただいた。石原先生にはとくに3年団の専属講師のようなかたちで夜遅くまで何回となく足を運んでいただいた。また県教育委員会同和教育振興課の先生がた、県同教の先生方と数え挙げればきりが無い。そのような多くの先生方のお陰でなんとか頑張ることができた。先生方のご指導がどれだけ心強かったことか。本当にありがとうございました。
- そして何よりも漆原校長先生初めとする先生方の励ましやご指導が無ければ到底このような形にまとめることもできず、実践もまた不十分な形に終わっていたことだろう。考えてみれば多くの人の支えがあって始めて毎日が送ることができていることを実感する。それらの先生方や保護者の方、そして生徒諸君の励ましを無駄にしないためにも心新たに明日から頑張っていきたい。本当にありがとうございました。

平成4年3月

3年学年主任 仁木真之